

## 令和4年度第1回 かめおか霧の芸術祭実行委員会 議事録要旨

日 時 令和4年5月20日(金)15:00～17:00

会 場 ガレリアかめおか 大広間

司会:事務局次長(文化国際課長)

【開会あいさつ】 桂川顧問

【委員自己紹介】

【アーティスト・事務局紹介】

(議長)

議題(1)「かめおか霧の芸術祭実行委員会 会則の改正」について、事務局から報告をお願いします。

【事務局からの報告】

(議長)

ただいま説明のあった内容について、意見、質問、補足等あればお願いします。

(委員)

今回、監事を1名体制から2名体制にする理由を教えてください。

(事務局)

今までは市職員から監事を選出し、市の内部で監査を行っていたが、市の外部の方にも監査を行っていただき、より適正な監査を行えるようにすることが目的です。

(議長)

ただいま説明のあった内容について、意見・質問があればお願いします。

なければ、承認の場合は拍手してください。

【拍手】

(議長)

拍手多数で原案のとおり承認されました。

ただいま承認された会則の改正に基づき増員される監事については、委員長が委嘱する事となっていますので、豊田委員にお願いしたいと思います。

(豊田委員)

承知しました。

(議長)

議題(2)「令和3年度 事業報告及び決算報告」について事務局から報告をお願いします。

【事務局より決算報告】

(議長)

ただいま説明のあった内容について意見、質問等あればお願いします。

(顧問)

かめおか霧の芸術祭では、様々な事業を展開しているが、どの事業にどれだけの参加者があったか、そのようなデータはありますか。

(事務局)

コアイベントである霧の芸術館の参加者は、2,424人(総計)でした。

その他の事業での参加者についてすぐにわかる数字はありませんが、ボンボンマルシェは3回開催し、累計1,500人ほど参加者がありました。

(顧問)

コアイベントだけではなく、データとして全体の参加者の数値を把握しておいていただきたい。

事業を行う上で参加者等の数値のデータを把握しておくことが重要である。

KIRICAFEについても何人来たのか、売上等、数字で把握し、事業を運営することが重要。

数値化することで、事業の見直しや次の取り組みにつなげることができるので、データ化する意識を持って事業運営を行うようお願いしたい。

(委員)

決算が事業毎に整理されているのは、補助金などの性質によるものですか。

(事務局)

亀岡市から補助金を受けているもの、京都府から補助金を受けているもの、それぞれ事業によって財源となる補助金の出どころが違うため、補助金の性質によって決算をしています。

(議長)

令和3年度の事業を振り返り、総合プロデューサーから意見はありますか。

(総合プロデューサー)

令和3年度は、コロナ禍で綱渡りの中で計画を立てていたものの、市長や関係各課の英断もありなんとか事業を実行できてよかった。その時々々の決断や実施するための仕組みがスムーズに行えたのではないかと感じます。

コアイベントは寒い時期も重なり、なかなか来場者を獲得することはできなかった。先ほども市長からありましたが、参加者は全体を計算すると膨大な数になる。しかし、その数値をデータ化しておかないといけなかったことは昨年度の反省点です。

令和4年度は人の動きやすい時期に広報をするなど適切な方法を考え、実行に移し、集客につなげていきたいと思えます。

昨年度は予算的に広報が難しかった面があったが、今年度はその分の予算を広報につけていたのでしっかりやっけていこうと話しているところです。

(議長)

決算報告・事業報告について承認ならば拍手をお願いします。

【拍手】

(議長)

議題(2)「令和4年度事業計画(案)及び予算(案)」について、事務局から説明をお願いします。

【事務局からの説明】

【プロジェクトチームから事業計画(案)の説明】

【事務局 収支予算(案)の説明】

(プロジェクトディレクター)

今年度は前年度以上に認知度を上げ、集客を行うために、WEB・SNSでの発信やプレスリリースを打つなど外部メディアも活用していきたい。

(クリエイティブディレクター)

霧の芸術祭の見せ方やブランディングを担当させていただきます。イベントを実行する上で大切なことは、出来ること出来ないことを見極めていくことです。霧の芸術祭のいいところは、市民が継続的に参加していること、作家やチームメンバーのモチベーションが高いということですが、これによる弊害もあります。例えば霧の芸術祭に興味を持って参加するかどうかは人によって基準が違うので、とにかくがむしゃらに芸術祭を行うのではなく、本質的に良いポイントを媒体などに落とし込み、それを周りにうまく伝え、興味を持ってもらうことが大切。なので、そういう部分をデザインやクリエイティブの部分でサポートしていきたい。

(事務局)

昨年度の事業全体で参加者が10,364人あったので報告します。

(委員)

私は、霧の芸術館に作家として、KIRI<sup>2</sup>芸術大学の講師として、そしてマルシェに参加者としても参加している。それを踏まえた上で、令和4年度のコア展覧会の内容が変わることについて意見したい。

令和4年度の事業を決めていく際には、実行委員会で決めていくことになるので、今まで参加してきた人にコア展覧会の内容が大きく変わることを事前に伝えるのは難しいかもしれない。しかし、例えば、今まで KIRI<sup>2</sup>芸術大学は霧の芸術祭の一つの柱だったし、年間を通じた講座でした。それは、亀岡の生涯学習の側面や市民講座の側面があり、いろんな立場の人が講座を開き、支えてきて、幅広い人が参加してくれていた。

新年度に大きくリニューアルすることが今まで講座を支えてきた講師に伝わっていないことは、今まで参加してきた人を置き去りにするということになり、非常に残念なことだと感じました。

継続性は大事であるし、参加していく人たちが次に向けてパワーアップして講座に参加していく仕組みが必要です。なのでリニューアルして、これからパワーアップするためにも今まで参加して支えてくださった人たちに、リニューアルすることを事前に伝えていく必要があると感じています。そういう情報共有があることを前提に、新しいタイプの KIRI<sup>2</sup>芸術大学や霧の芸術祭が始まるのであれば皆さん喜んで参加されるのでは。今回、KIRI<sup>2</sup>芸術大学と展覧会を連動させるということだが、うまくやらないと二兎追うものは一兎も得ずということになって、今まで KIRI<sup>2</sup>芸術大学で参加していた人が講師もしなくてはいけなくなって参加がしづらくなるかもしれない。

(議長)

事務局の方からあればお聞きしたいと思います。

(事務局)

来年度はどんな展覧会にするのかスタッフで考えました。今年はどうのような形にするのが一番いいのか議論に時間がかかってしまって、今までお世話になっていた方々に連絡が滞っていたことにつきまして、大変反省しております。皆さんと共有しながら今後すすめてまいりたいと思っています。

(総合プロデューサー)

合意を得るためのプロセスが不十分だと思います。KIRI<sup>2</sup>芸術大学が重要なものであるのには変わりありません。我々がイメージしているのはグレゴリー青山さんが漫画教室されて、市民の方が参加されてそれが盛り上がり京都新聞の連載をもらうようになったというような、これが KIRI<sup>2</sup>芸大の一つの形の在り方かなと思っています。そういう形でなくても日常的に芸術に親しめる KIRI<sup>2</sup>芸大というものもちろんあってもいいと思うが、今回グレゴリーさんとやったようなことを展覧会の中に組み込みたい。そういったゆかりの芸術家の中に市民も入ってくるという形にしたいと思い、市民が参加して展覧会を作っていくというプログラムを作ったわけです。これに関しては内容と募集要項を検討中なのですが、それを公表する前に一度これまで関わっていただいた方と集まって話をしなければいけないなと思っていた矢先のご指摘なので、早急にその場を作りたいと思います。

(委員)

毘沙門荘周辺は交通の不便なところであり、集客しにくい部分があるのではないかと。色んな人が参加できるように霧芸の生徒や講師に深く関係性を持たせてというのはわかるのですが、広報に関してもっとしっかりとしたイメージを持たないとより集客が少なくなるのではないかと。新しい展覧会の募集をしてどのような人が集まってくるのか、全貌が見えないなというような感じがしております。

広報のために新しいスタッフを配置したのは良いのですが、広報をさらにしっかり進めてほしい。多くの方が参加して、現場で見て体験してわかるものであると思います。私は展覧会の時にダイレクトメール・案内状というものを送りますが、はがきサイズの DM などを作っていたら、作家から発信できて効果的だと思います。

(委員)

若い方々が広報に力を入れて発信していただけるということで力強いのですが、誰をターゲットに、どこにどういう風に情報発信するのか。それでデータを取って、解析して、自身でどうやって回しているのかというところをもう少し皆さんで、若い方で話し合ってもらって良くなっていくのではないのかなと。デジタル広告に特化してグーグルアナリティクスを回してほしいと思います。広報の職員が詳しいのでよろしければ職員からお知恵をお貸しして一緒にやらしていただいてもいいかなと思います。

(議長)

すぐに答えはでないかと思いますが、投げかけということで事務局から何かあれば。

(事務局)

助言ありがたいと思っています。やはり数字は大切だと思うので、市役所の中でもそういった部署の中でご相談させていただく中でより戦略的な方法を考えて、進めていきたいと思っています。

(議長)

皆さんにご意見をいただきたいのですが、そろそろ時間が迫って来ていまして、特にこれだけという方はいらっしゃいますでしょうか。

(顧問)

一つお願いしたいのは先ほど鳥山参与が言ったように行政のプロモーションと上手く連携してやってほしいというのと、もう一つは関わっている霧の芸術祭の方々をしっかりと見える化していくことが大切だと感じます。

今年亀岡市は、文化資料館を中心とした新たな DX を含めメタバースの取り組みを進めます。できたら霧の芸術館・芸術祭も仮想の中で芸術祭という形で位置付けていけるようにしていけたらと思っています。今年度やる事業がメタバースの中でしっかり霧の芸術祭として仮想空間でいつでもだれでも芸術家の作品が見られたり芸術家のプロフィールがわかったり、アトリエがわかるような取り組みに繋げていけるように考えてほしい。

それと、もう1点は芸術家の皆さん方の作品を EC サイト含めて販売をするということも考えてほしいと思っています。できればそれを亀岡のふるさと納税の返礼品にするという事もできるとしています。皆さんの作品が芸術祭を飛び出して個人の宅に行くことなんかも含めてやっていただきたい。それが結果として、霧の芸術祭が皆さんがたの実績に位置付けていければうれしいと思っていますし、若い方々がその門を叩いてそこに関わったことによって将来新たなステージに繋がっていけば私はうれしいと思っています。本日はありがとうございました。

(議長)

ありがとうございました。

それではただ今の課題のご指摘とかご助言とか含めまして、議題(3)の令和4年度事業計画(案)及び予算(案)についてご承認いただける方は拍手をお願いしたいと思います。

【拍手】

(議長)

ありがとうございます。それでは原案のとおり承認をいただきましたので、これを元に事業を進めていきたいと思えます。議案につきましてはすべて終了しましたので、議事進行を事務局にお返ししたいと思います。

(事務局)

皆様におかれましては長時間にわたりご審議をいただきましてありがとうございました。

本日みなさまからいただきましたご意見を元に芸術祭をさらにより取り組みとなるように皆で話し合いながら進めてまいりたいと思えます。

それでは閉会にあたりまして西村副委員長からご挨拶をいただきたいと思えます。

(副委員長)

長時間ご審議いただきましてありがとうございました。

令和4年度の事業計画また予算のこと踏まえ、色んな意見いただきましてありがとうございました。皆さんの指摘も十分踏まえて検討して進めていっていただけたらと思えます。

本日は、ありがとうございました。

(事務局)

長時間に渡りありがとうございました。

次回の実行委員会の日程については状況を見ながら日程等調整させていただきたいと思えます。ありがとうございました。